### 平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムープメント全国展開事業」

# 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- Ⅱ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

# 道府県・政令市名【京都市】

| 1実践テー | -マ [ Ⅲ·V ]   |
|-------|--|
| 2実施対象 | 京都市立 竹田小学校 第6学年 62名  |
| 3展開の形 | ジュー(1)学校における活動   |
|       | ① 教科名 (特別活動,総合的な学習の時間)   |
| 4 目 標 | パラリンピックで行われる種目である車いすバスケットボールの選手と交流   |
| (ねらし  | )) することを通して、障害のある人が行うスポーツやオリンピック・パラリンピ   |
|       | ックについての興味や関心を高め、障害のある人たちの思いや願いを知り、自  |
|       | 分にできることを考え、生活に生かそうとする。   |
| 5 取組内 |  |
|       | 本校では、6年生の総合的な学 きゅうについて学ほう(総合)  |
|       | 習の時間に、「生き方について学 (ポロリフティング元ジュニアチャンピオン西田万智々さんのお話 (ペアーリフティング元ジュニアチャンピオン西田万智々さんのお話 (ペアーリフティング元ジュニアチャンピオン西田万智々さんのお話 |
|       | ほう」を行っている。また、人権 「「関係情報を入めるの強さについて考えよう! (単独) 「連続は「連いすバスケットボールの選手と交流しよう」   |
|       | 字省(千スナ学省)の7月の課題 -2 車いすバスケットボール選手の話を聞こう(総合)   |
|       | は、「障がいのある人にかかわる 11月 ・中国人留学生と交流しょう ・ 学校医さんからのお話を聞こう ・ ブロダンサーの仕事を知らう   |
|       | 学習」を行っている。この両方の 12月<br>1月 ・民族学級の先生からお話を関こう<br>・AED 体験をして救急救命士の仕事を知ろう 等   |
|       | 学習に絡めて、1時間目は車いす 2月 ○ 【総合】将来の仕事について具体的に考え、自分の事を語ろう。   |
|       | 体験と車いすバスケットボール体験を行い、2時間目は、総合的な学習の時間に   |
|       | 位置付け、選手による講演を聴いて、生き方について学ぶ学習として行った。  |
|       | (2) 授業の様子  |
|       | ①「車いすバスケットボールの選手と交流しよう」  |
|       | 選手の自己紹介のあと、体育館で、一人一人が  |
|       | 競技用車いすに乗って、リレーをした。途中でコー<br>ンの周りを一周するところが子どもたちにとって  |
|       | は難しいようであったが、全員が競技用車いすを自  |
|       | 分で操作することができた。その後、各クラスの代  |
|       | 表が車いすバスケットボール  |
|       | の試合を行った。選手がそれ  |
|       | それの対戦チームに入って、  |
|       | パス回しをリードして下さ   |
|       | り、思っていた以上にうまく<br>ゲーム運びが進んだ。試合に   |
|       | 参加しない児童は、観戦にま  |
|       | わったが、攻守の切り替わり  |
|       | が早いゲーム展開に大興奮しながら応援していた。白熱した会場には、シュート   |
|       | を放つ毎に大きな歓声が Lがった   |

を放つ毎に大きな歓声が上がった。

②「車いすバスケットボール選手の話を聞こう」

車いすバスケットボールチーム京都アップ スの代表の山本さんが、自らの経験を元に子 どもたちに夢を語って下さった。若くして交 通事故に遭遇したことや、車イス生活が始ま って苦労したこと、車イスバスケットボール と出会ったこと、今の仕事のこと、子どもた



ちに伝えたいことなど、心に響く語り掛けをして下さった。子どもたちは、真剣 に話を聞き、自分たちにできることを考えることができた。

#### 主な成果

今回の学習は、子どもたちの心に残る体験となった。競技用車いすに乗る体 験、車いすバスケットボールに触れる体験、選手の生の声を聞くことが、子ど もたちにとって、自分たちの生き方を主体的に考えるきっかけになった。感想 文にもあるように、どんなことがあってもくじけずに、努力を積み重ねていく という生き方や、自分たちにできることを考えて行動すること、そして、スポ ばらしさを子どもたちは、心底実感することができた。

| ーツかつなぐ人の軸のす             |
|-------------------------|
| 美える事法 大平なんだと、わかりました。    |
| しうわかりつ、てせなどよかれるではよったは   |
| こうしよう」と考えて十てかりまりに共えていま  |
| Contito                 |
| 東する生の大い大小りの体験をしました      |
| か、すこくなしか、たけまり           |
| かんせんしているとすし、楽しくて、しあいき   |
| 見に行きたいと思いました。           |
| 今日は、連一などのでいる人と見した。      |
| かかいそうとじったしっぱしかけれ        |
| ひきをことを大元/1.6年           |
| /まくはA本の不自かと人を食力でおけられてよう |
| 人になりた。たちなせなら人を支きることは    |
| Yでも大きがごとで、かってす。         |
| 南秋バスケットボールでは、少し軽しかったけ   |
| 不自由なくではいてきるようながらなってい    |
| クース、YZもすごい聞きたすというもた。    |
| これかられたとせんの大き物がされたられるよ   |
| かしたいでも.                 |
|                         |

まずがいけで、おもらりか。たろう。 基础不同的记程,但人间,我们在企业,我们上门 EMI. 费用可它们的更可以出现了 人也行人們教育完全個大切想人作得為

ど、竹かりました。 SANKTHETEL ·· 是L 在。《 专题 《 是行主な鉴,下相 左からてい、くをに出りがあるのでは飲 研弾して見し、今とは月分ととまる付着では つけるとくのかが、 といる状とすい たいつかこをます るか分からない。もしから、ても水はは の もまい の (歌くた)なしてし,外りして () ままいとま 今日末日大夫 ニンを手いま の たま トロンド タレ かのごはないだ います。前向まに明るくりまできる人が 後 ちかのいだる 生元 さ見つける ラガル

利用ではます。Aボルルやルー報できるのは、「Doくは、今回投業をしてあたりのかいことが次ので大は たて思いました。元々、ナッカーとしていたのに手故さ 足が動かなくならということはとても対象をな とその事実を受け止める での目標に向かってかん はっちということはチェック 思いました。よ本さんは最初 サ玄海 がなめ、101、地の人かで、こいらの意見で、自分も良けていられた人まという意思を持ってまりはまするおんな 3月は手一、と思いました。本(スハスケットオールはいいと思いました。なかなら、としまれずまたなくな。ことまたまたない。としまれずまたなくな。ことまたまたなのになったるともなった。 からてままくスパステ、シホールのがまは今日見て これと思いした、などなり、中1てのほいかも上がしまれたが、よの中でホールギトファルトのかりたっかしく 戦力る の 10 1 : くきちか やまた と思い まんた。13 くしは 軽して キイマを上すに 手うし リリー くおびか 火き たと思いしショートかあまりととかないとりもお たので、コントロールも力も強いていうことからか きした、他の人もるがはていたりと、こっとが決まった ラ みんなもり: くをんでいたし、この 軽 校 は みんなかた ましかると 思いました。 ふつうのハスケットオールと りかからと思いました。などならかつうのやスケットボールかつまいくかる歌していたのですごくちかり雑まだこと、ひといました。今日経費をして、改めてある わないことと時かいるとすなということのいるかりい

## 7実践におい て工夫した点 (事業の特色)

- 子どもたちが、実際に車いすを操作したり、車いすバスケットボールを体験 したりできるように、競技用車いすを10台借用し、体育館に準備した。
- 事前に打ち合わせを行い、子どもたちの具体的な活動内容を、実態に合わせ て設定した。また、本校が取り組む総合的な学習の時間とのつながりで、講 師の実体験を踏まえた話を子どもたちに講演をしてもらえるように依頼し、 内容を調整してもらった。
- ・選手の車の駐車スペースを広めに確保したり、体育館の入り口に斜めの簀の 子を用意したりするなどして、車いすでの移動経路を確保するようにした。

#### 8主な課題等

今回の学習は、子どもたちにとって大変意義深いものとなった。オリパラ事 業として予算を頂けたことによって、選手への謝礼や、競技者用車いすを10 台運搬する予算を賄うことができた。できれば、次年度以降も継続して行って いくことを願っている。多くの子どもたちがこのような貴重な体験学習のでき る機会を、今後も継続していって頂きたいと強く願っている。

### 9来年度以降 の実施予定

本校の取り組む人権学習(キズナ学習)においては、一過性の取組ではなく 学年ごとの積み上げが大切であると考えている。来年度は、本校体育館改修工 事のため、体育館の使用ができないことが非常に残念である。しかし、その次 の年以降には、人権学習としても価値の高い学習効果がみられた今回のような 体験学習を、今後も、再開・継続できることを強く望んでいる。